



# A NATION'S LEGACY

絵画でたどる アメリカの歴史

# アメリカの遺産

## 絵画の150年

1992年8月7日(金)～9月6日(日) 高松市美術館

午前9時～午後5時/入室は午後4時30分まで  
(初日は午前10時オープン、毎週金曜日は7時まで) 月曜休館

高松市紺屋町10-4  
phone.0878-23-1711

入場料◆ 一般900円 高大生600円 小中生300円 [前売り及び団体20名以上は2割引]

主催/高松市美術館・朝日新聞社・瀬戸内海放送・オハイオ芸術協会

後援/外務省・文化庁・アメリカ大使館 企画協力/コロンバス美術館 協賛/富士通株式会社 助成/日米友好基金



2.



3.

第二次大戦後より今日まで、アメリカの文化は計り知れない影響を日本に与え続けています。日常生活の中でも、高度にアメリカナイズされた私たちを見出すことが少なくないでしょう。美術についても例外ではありません。抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアート、スーパーリアリズム。戦後のアメリカで勃興したこれらの美術動向は、パリを中心としたヨーロッパに代わって世界の美術界をリードし、日本の作家たちにとっても大きな指標となったものでした。

しかし、これらの美術も突然に現れたものではありません。インディアン芸術を除いてほとんど伝統というものが根づいてなかったアメリカでは、当然のことながらヨーロッパ美術の摂取とその強い影響のもとでの出発を余儀なくされました。独立戦争(1776)から南北戦争(1861~65)を経て今世紀へといたる時代の流れの中で、自らの独自性を徐々に見出していった歴史をもっているのです。

19世紀中期から現代にいたるまで150年にわたるアメリカ美術の主要な動向をふまえ、約110点の名品を紹介する今回の展覧会は、アメリカという国を改めて見つめる、またとない機会となるでしょう。

4.



5.



6.



※写真

1. ウィンスロー・ホーマー「子供の遊び」1872年
  2. トーマス・コール「イタリア風景」1839年
  3. ジョン・シンガー・サージेंट「テレサ・ゴス」1885年
  4. ロバート・ロンゴ「無題(メン・イン・ザ・シティ・シリーズ)」1983年
  5. ジョージア・オキーフ「紅葉-ジョージ湖, N. Y.」1924年
  6. 国吉康雄「果物を盗む少年」1923年
- 表: エドワード・ホッパー「朝日」1952年

#### [主な出品作家]

- I 19世紀中期-ハドソン・リヴァー派、アメリカの風景の発見  
トーマス・コール/フレデリック・チャーチ/ウィンスロー・ホーマー
- II 19世紀後期-写実絵画の確立とヨーロッパ美術へのまなざし  
トーマス・エイキンス/メアリー・カサット/ジョン・シンガー・サージेंट
- III 初期モダニストの時代-新しいリアリズムとモダニズムの衝撃  
ロバート・ヘンライ/国吉康雄/ジョージア・オキーフ
- IV 20世紀中期-具象絵画の展開と抽象表現主義  
エドワード・ホッパー/アンドリュウ・ワイエス/アド・ラインハート
- V アメリカ現代美術-ポップアートの登場、多様な現代へ  
ジム・ダイン/ジョナサン・ポロフスキー/ロバート・ロンゴ

#### 講演会「アメリカ美術150年の歩み」

講師/早川博明(福島県立美術館学芸課長)

8月9日(日)午後1時30分より

美術館1階講堂にて 入場無料 先着200名様

#### 次回の展覧会

ウィーン幻想派展 10月16日(金)~11月15日(日)